

2025 年度

国府台女子学院 中学部

推薦入試基礎学力調査

国 語 (40 分)

【注 意】

1. この問題は、「始め」の合図があるまで開いてはいけません。
2. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
3. 印刷が不鮮明ふせんめいでわからない場合や、その他わからないことがあった場合には、
だまって手をあげ、先生にたずねてください。
4. 答えは、すべて別紙解答用紙に記入してください。

注意Ⅱ句読点や記号もそれぞれ一字と数えます。

問一 次の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

- ① 電光セツカツの速さだ。
- ② 事件のコウズが見えてきた。
- ③ プロにテンコウする。
- ④ 町のヨウソウが一変する。
- ⑤ 堂に入レった演技。

問二 次の——線部が「一分の隙」の「分」と同じ読み方のものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 分ワ厚い本 イ 自ミ分 ウ 分ワ別 エ 分ワを知る

問三 例に従したがって当てはめた次の() 部分の数字を足すといくつになるか。算用数字で答えなさい。

例 いちご…一五 名古屋…七五八

人はいろいろ やさしい人に いやみな人や こわい人
一八一六一六 () 一八三七一八 五八一

(出典参考『ことばあそびだワン』小島貞二編(株)アリス館)

問四 日本には「雨」にちなんだ言葉がたくさんあります。次の言葉はどのような雨の様子を表しますか。漢字の意味からイメージを広げ、最も適

切なものをあとのア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

・猫毛雨

ア しつとりとふる雨 イ つややかな光をもたらす雨
ウ ちくちくと肌はだにささる雨 エ 細くて柔らかい雨

問五 次のア～ウの語の□に共通して入る身体の部位を表す漢字一字を答えなさい。

ア 牛□る イ □目を驚おどろかす ウ 俗□に入りやすい

問六 次の英語によることわざを英単語の注釈を参考にして、およその意味を理解し、これと同様の内容を表す日本語のことわざをあとのア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

Out of the mouth comes evil

注 Out of ……から evil ……悪・悪魔

ア 窮鼠猫を囓かむ イ 地獄の沙汰も金次第
ウ 悪事千里を走る エ 口は災わざわいのもと

問七 次の①～③の意味を全て持つ漢字一字をあとのア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 強く思う
- ② 注意する
- ③ 唱える

ア 信 イ 念 ウ 志 エ 意

問八 「難問」と熟語の構成が全く同じものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 清流 イ 因果 ウ 永久
エ 帰郷 オ 延々

問九 次の空欄に入る言葉として最も適当なものをあとのア～カから一つ選び、記号で答えなさい。

【一】 自分が体験したかのように話す。

- ア あたかも イ あながち ウ いささか
エ おもむろに オ つくづく カ とりわけ

問十 矢印の方向に読んで熟語になるように、空欄に入る漢字一字を答えなさい。

面 → □ → 色
真 ↓ □ ↓ 破

問十一 「あくせく」という言葉を使って二十字以上三十文字以内で短文を作りなさい。話を通じれば主語がなくてもかまいません。

問十二 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

私は、自治体に呼ばれ人権問題研修で講演する機会がありますが、講演の冒頭で「踏まれた人でないと、足の痛みはわからない」という喩えをよく使います。

混んだ電車の中で、思わず誰かの足を踏んでしまうことがあるでしょう。そのとき、混んでいればいるほど、自分の足が誰かの足を踏んでしまっていることに気づきません。というか東京のような殺人的なラッシュでは身動きすらできない状況にまでなることもしばしばですが、いずれにせよ、「痛い！」という叫びや「足をどけてください！」と言われて初めて、私たちは気づき、「すみません」と謝り、なんとかして足をどけることになります。このとき、(踏まれるー踏む)という立場は明確に異なっているし、「痛い！」「どけてください！」と声をあげるのは、あくまで踏まれている側です。

(中略)

差別の場合も状況は似ています。差別が差別として、世の中に立ち現れるのは、差別を受けた側が「痛い！」「なんとかしろ！」と世の中に向けて「声」をあげるからです。差別を受けることで経験する苦しみや悲しみ、怒り、憤りなど、「声」をあげ、自らが差別を受けるような世の中のフジョウリにa 対して抗議し、異議を申し立て、世の中を告発する営みがあつて初めて、差別の輪郭が明らかになってきます。

(中略)

『あたりまえ』を疑う社会学(二〇〇六年、光文社新書)の中で書いていますが、ある評論家の発言に私は驚愕したことがあります。もうかなり前になってしまいました。深夜のニュース番組で解放運動を進めている被差別当事者と評論家との対談がありました。冒頭評論家はこう切り出しました。

「私は生まれてこのかた、差別を受けたこともないし、差別をしたこと
もありません。その意味で普通の人間です。普通の人間として、これか
らあなたにいろいろと質問したいのですが……」。

自分は一度も差別などしたことがないとダンゲン^bできることに、私はまず
驚きました。なぜなら先に述べているように自分の行為が差別的であるか否
かについては、それを受けた人の「声」によってわかるのであって、行為者
が自分で決めることができるようなものではないからです。そして私はそれ
以上に、差別に関係がない人間が「普通」だという了解に驚愕しました。

この評論家の発言の背後には以下のような差別をめぐる心理学的な了解図
式とでもいえるものが息づいています。

差別を受ける人も差別をする人も「Ⅰ」ではない。彼らは「Ⅱ」
であって、差別とは「Ⅲ」な人たちの中で起こる「Ⅳ」な出来事
なのだ。その意味において差別は「Ⅴ」ではない出来事だ。他方で私
も含めて多くの人々は「普通」の世界で生きている。「普通」である私は、
差別とは「A」に関係がない。だからこそ、より「B」に、冷静に差別に
ついて考えられるし、「特別」を生きている当事者のあなたに、いろいろと
問いかけられるのだ、と。

これは、まさに「硬直した」二分法^c的見方のテンケイといえます。

先の新書で私がこの発言をとりあげ批判し、言いたかったことを確認して
おきます。

①「普通」の人間であれば、差別しないし、差別などに関わりがないはずと
いう考えは、まったく根拠のない幻想です。さらにその裏返しとして「差別
者であれ被差別者であれ、差別に関わる人びとは普通でない特別な存在だ」
という考えは、差別をできるだけ限定し、狭く稀なできごととして私たちの

日常生活世界から締め出そうとする硬直した見方です。

差別とは、差別をした人と差別を受けた人との間の「問題」であり出来事
なのだ。「普段」差別などしていないし、する気もなく「普通」に生きてい
る私たちにとって、差別は関わりのないことだ。硬直した二分法^c的見方は、
こうした了解を私たちに与えてしまいます。

例えばテレビ・ドキュメンタリーやニュースで、差別の激しさや被差別
当事者の生のジッソウ^dなどを知り現実の厳しさを実感することもあるでしょ
う。その時私たちは「かわいそうだ」「差別は許せない」という思いがわき
あがる一方で、「自分がそうでなくてよかった」
と感じます。そして、差別というできごとから距離をとり、それを自らの生
活世界から締め出してしまうおとします。

つまり、私たちは、基本的に自らが生きている日常生活世界を脅かすこと
もない「問題」「事件」として、いわば「対岸のD」^eとして差別を傍観
しながら、差別を受けた人々の「痛み」や「怒り」に同情し共感し、差別を
した人を「怒り」「批判」^fすることができるのです。

「差別を考える」うえで、まず必要な作業があります。それは（被差別→差別）
をめぐる「硬直した」常識的な二分法をひとまず「カッコに入れる」、つま
りペンディングし、使わないように気をつけることです。

③そして差別問題をめぐり自らの位置取りをするときに思わず語ってしまう
「普通の人間」の姿、対岸で「D」（＝差別）を安心して見物できる「普通
の人間」の姿とは、いったいどのようなものなのかを詳細に読み解こうとす
る「E」をもつことです。

（好井裕明『他者を感じる社会学』ちくまプリマー新書）

1 〓線部 a ~ d を漢字に直しなさい。

2 本文中の四角棒^{わく}の評論家の発言に対して筆者はなぜ驚いたのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分は差別をしたことがないと信じて差別を外側から傍観^{ぼうかん}し、被差別当事者に興味本位で質問しているから。

イ 差別に関わらない自分は「普通」で、関わる人は「特別」だとする見方が、無意識に相手を差別していることに気がついていないから。

ウ 自分が差別をしたことがある可能性を疑わず、関係のない他人事として被差別当事者の痛みを理解しようとしていないから。

エ 自分は差別に関わったことがないと決めつけ、差別に関わることは「特別」だと自分の日常から切り離して考えているから。

3 空欄 I ~ V には「普通」か「特別」のどちらかの語が入る。空欄に当てはまる語を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 普通 イ 特別

4 空欄 A・B に入る語として最も適当なものを次のア~カからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 相対的 イ 基本的 ウ 合理的
エ 主観的 オ 客観的 カ 支配的

5 〓線部①「『普通』の人間であれば、差別しないし、くまたく根拠のない幻想です。」とあるが、日常でみられる無自覚な差別行為（マイクロアグレッション）の例として当てはまらないものを次のア~エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 仕事で昇進^{しょうしん}した女性の知人に、「女性なのに出世してすごいね。」と言った。

イ 部活の大会で自己ベストを出した友人に、「努力が報われてよかったね。」と言った。

ウ パソコンが得意なおじいさんに、「ご高齢^{こうれい}なのにすっかりされていきますね。」と言った。

エ LGBTの友人に、「男女どちらの気持ちもわかっていいね。」と言った。

6 空欄 C に入る言葉として最も適当なものを次のア~エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「私にできることはないだろうか」

イ 「差別をなくすなんて理想論だ」

ウ 「できることなら関わりたくない世界だ」

エ 「差別とは意外と身近に存在するものだ」

7 〓線部②は「自分にはまったく関係のない出来事」という意味の慣用句である。その慣用句になるように、空欄 D に入る語を漢字二字で答えなさい。

8 —線部③「ペンディング」の意味として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 保留 イ 樹立 ウ 受容 エ 批判

9 空欄Eに入る語として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア しがらみ イ つながり
ウ ひらめき エ まなざし

10 本文の内容として適当なものには1、まちがっているものには2とそれぞれ答えなさい。

① 満員電車で足を踏まれている側が「痛い！」と主張して初めて気づかれるのと同じように、差別を受けている側が声をあげることではか気づかせられない。

② 硬直した二分法的見方とは、差別をする側と受ける側が逆転する可能性を考えていない、差別を日常生活世界から切り離す見方である。

③ 差別とは、差別に関わりがあるかないかに関わらず、誰にとつても普段の日常生活の中で起こる「事件」であり、「普通」の世界の中の「特別」であるといえる。

④ 我々は差別を受けた人に同情したり、差別をした人を批判しつつも、自分には関わりのない話であると無意識に考えてしまいがちである。

⑤ 差別を考えるうえで大切なことは、硬直した二分法的見方にとられず、差別をする側と受ける側の両方の立場に立って、冷静に事

実を見つめることである。

